

むかしの仕事のこと

——郡昇作さんの本から——

など

郡昇作さんは、いまから四〇年あまり前の
一九三四（昭和九）年に、当時の市立今宮保
護所につとめた。無料宿泊施設である。

それからほとんどずっと、釜ヶ崎に関係し
た役所づとめをつづけ、労働福祉センターが
できると職業紹介部長になり、一九六六（昭
和四一）年三月に退職した。

そういう郡さんが、愛着をこめて作った本
に「日本の玄関 釜ヶ崎」と「釜ヶ崎無宿」
がある。

これから紹介するのは「日本の玄関 釜ヶ
崎」に出ていた「昭和十二年の今宮スラム」
のあらましである。この年の七月七日、日本

橋を賣う）、古道具、皮質へんは肥料になる
）、屑質、毛質（敗髪屋をまわるのだろう）
等の買屋。鋸目立、靴修繕、砥屋、巡れ、屑
拾、遊芸人、洋傘修繕、帽子洗濯（蒸気をた
てる器具、木型などが必要）、下駄通しの如
き収入の少ない雑民業者。手伝、仲仕、人夫、
立ん坊、衛生人夫、土方、井戸堀等、新炭、
八百物、古物、駄菓子、化粧品、断屑（ハギ
レのことだろう）、古本等の商人。関東煮、
テキヤ等の夜店商人。玩具工、鉄工、サドル
工（自転車であろうか）、洋裁工、製本工、
木箱職、パンキ職、塗物屋、挽物職、指物大
工、家大工、木挽、製材工等。その他板屋や
理髪職。

郡さんは当時のオンスのことも書いていて
ので、ついでに紹介すると次の通り。

★密達売の置屋は三二軒で、売実幅は約八〇、
その看視人（しけ張り）は約三〇である。

★男娼置屋は九軒で、男娼の数は約一三〇で

は中国と戦争をはじめ、十月には労働組同盟
が戦争中はストをやリませんと決議し、十一
月には日本・ドイツ・イタリヤの三国で防共
協定が結ばれている。
以下、郡さんの本から拾い出したのを私流
に整理してみる。

★当時のドヤ宿泊者数 五七三四名（そのほ
か約二〇〇名のアオカン）

★簡易旅館六四軒 その他のホテル、旅館な
ど十七軒。

★部屋の高さは三疊が普通で、一室に何人か
を泊らせ、一人当り二十銭か三十銭をどっ
一部屋借りると一泊五十銭だった。

★泊っている者の職業の種類が並べてあるの
でそのまゝ写してみる。（）のなかは私の説
明である。

生魚、乾物、八百物（青物、野菜）、玉焼
（わからぬ）、行商、紙芝居、マツチ、玩具、
薬、石鹸、針、タワシ等の行商。屑質（あき

ある。

当時飛田遊郎は公認で商売繁昌していたの
に、そこへは行けない男たちが多くいて、相
手をオンスもいたというわけだ。売春防
止法のある現在と、そんなに変った状況では
ない。

またさきにあげた職業を見てゆくと、いま
はなくなつたものもあるが、砥屋とか巡れと
か洋傘なおしとかは少ないけれど町角で見か
ける。現在の大不景気下で、めいめいが何と
かシノギをつけている仕事の種類とくらべて
もおもしろい。

労働福祉センターを退職した郡さんは富田
林の方に住まわれたと聞くが御健在であらう
か。

（て）

